最近の話題

風疹の流行に注意しましょう

昨年から近畿地方や首都圏を中心に風疹が流行しています。長野県内においても、下表に示したとおり昨年から患者数が増え始め、今年は７月21日までの時点で、昨年１年間の14名を上回る56名の患者がすでに確認されています。

表　長野県の風疹患者届出数

（長野県感染症発生動向調査より）

年（平成）	22 年	23 年	24 年	25 年※
患者数（届出数）	0	1	14	56

※第 29 週（7 月 15 日～ 21 日）までの集計

風疹とはウイルス感染症のひとつで、主に発熱や発疹、リンパ節腫脹などの症状があらわれます。感染者の咳やくしゃみなどによって感染します。多くの場合軽症で済みますが、まれに高熱が持続したり、血小板減少性紫斑病や急性脳炎などの合併症を起こすことがあります。

風疹の一番の問題は、風疹に対する免疫(抗体)をもたない女性が妊娠初期に感染すると、その影響が胎児にもおよぶことです。妊婦から胎児にウイルスが感染すると、心臓や耳、目に障害をもった子供が生まれてくることがあり、先天性風疹症候群(CRS)と呼ばれています。

風疹を予防するにはうがい、手洗いに加え、予防接種がとても大切です。予防接種を受けることで風疹ウイルスに対する抗体ができ、感染から身を守ることができます。現在は、乳幼児期に２回定期接種を受ける機会があり、他の人も任意で接種を受けることができます。

当所では風疹ウイルスに対する抗体の保有状況を年に１回調査しており、昨年は県内に住む351名を対象に調査しました。下図は昨年の年齢群ごとの抗体保有率(HI抗体価８倍以上の人の割合)を示しています。予防接種をまだ２回受けていない人の多い３歳以下と、30代の各年齢群を除くと９割以上の人が抗体をもっていました。30代については男性の保有率が低く、５人に１人は抗体をもっていないと推測されました。これは、この年代の男性が風疹の定期予防接種の対象とならなかった時期が過去にあったためと考えられます。昨年からの流行は、この年代の男性の患者が多くを占めています。

先天性風疹症候群を防ぐためには多くの人が抗体をもち、流行を抑える必要があります。このため、妊娠を希望する女性やその家族、職場にいるまわりの人など、抗体をもっていないと思われる場合には予防接種を検討しましょう。また、万が一風疹と診断された場合には外出を控え、感染を広げないよう注意しましょう。

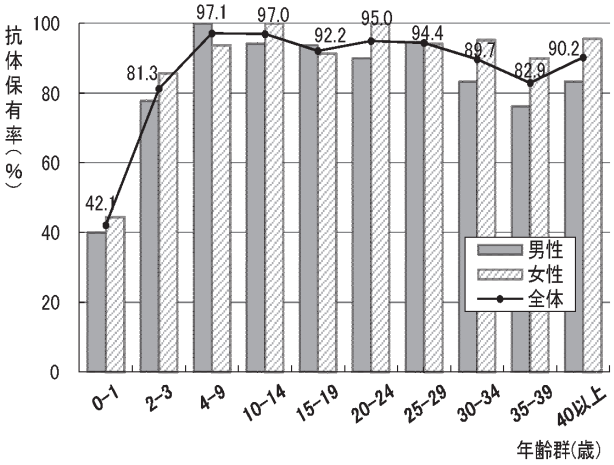

図　年齢群ごとの風疹HI抗体保有率

（小林広記　kanken-kansen@pref.nagano.lg.jp）